

# ひめだ高田ニュース

日本共産党 和歌山市公議員

No. 954

13.4.10

## 国保・軽減特例措置の延長

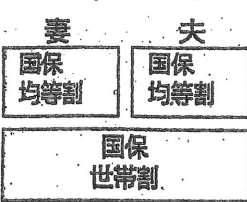
条例

後期高齢者医療制度が開  
始され、同一世帯でも75歳  
以上と70歳未満の夫婦が別  
々の医療保険に分けられた  
ときに、国保の世帯割りに  
ついて左表(中)のように

5年間の激変緩和措置がと  
られました。12年度末にそ  
の措置が切れることから2  
分の1の軽減措置を左表(下)  
のように4分の1にする  
緩和措置の延長の条例が

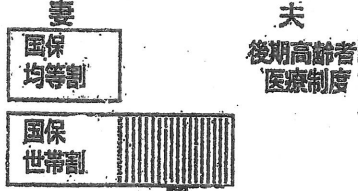
2月定例会で可決され  
ました。この水らの激変緩和  
措置は、国の指導を行われ  
ましたが、財源はどちらも  
国民健康保険料です。  
この条例についての賛否  
をどう考えるべきでしょう  
か。年齢によって医療保険  
制度を区別する後期高齢者  
医療制度は、元々問題があ  
り日本共産党は、廃止を主  
張しています。軽減措置を

2008年3月まで



<激変緩和措置(5年間)>

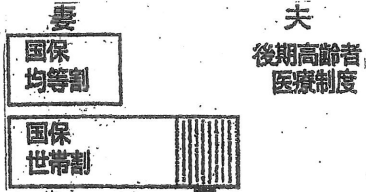
2008年4月～2013年3月まで



1/2の軽減措置

<緩和措置延長(3年間)>

2013年4月～2016年3月まで

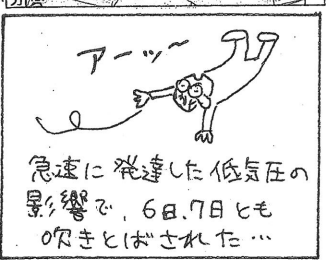
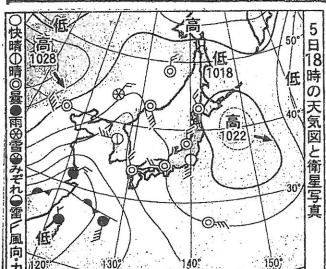


1/4の軽減措置

【夫(世帯主):75歳以上 妻:75歳未満】

続けるならば  
2分の1のまま  
継続すべき  
ではないかと  
いう意見もあ  
りました。し  
かし反対は軽  
減ゼロにつな

### アリアの人々



心配していた花見は  
花はもつかな?  
5日18時の天気図と衛星写真  
急速に発達した低気圧の  
影響で、6日、7日も  
吹きとばされた...

まあアア花見と  
いうこと?

からことから、党市議団は「この条例に賛成したのです。

こんにちは  
日本共産党の  
ふじい健太郎  
です。  
(その363)

なりました。

4月6日、和歌山市の  
勤労者総合センターで、  
高槻市福祉事務所ケース  
ワーカーの高田氏を招き  
「憲法25条と生活保護」  
の学習会を開きました。

高田氏の話の中で、生  
活保護行政に携わってい  
る職員へ常勤、非常勤、  
有期雇用など様々な雇用  
形態になっている(と思  
いや苦悩も様々あること  
が出され、和歌山市のケ  
ースワーカーの皆さんは  
どのような思いで生活保  
護行政に取り組んでいる  
のか、気になるところで  
もありました。国民から  
見ればケースワーカーに  
は福祉の専門家として、  
保護行政の知識や実務能  
力だけではなく、国民の  
生活権とその保障制度を  
高めていく努力も求めら  
れているのです。



# 社会保障充実と生活保護制度

4月6日(土) 13時30分より勤労者総合センターホールで和歌山市社会保障推進協議会(社保協)主催の「憲法25条と生活保護制度」の学習会が開かれました。講師の高田さんは、高槻市社保協の初代事務局長や労働組合の役員を務めたことが、生活保護の見直しについて、社会保障充実の観点からどう進めるべきかについて、職員意識、生活保護を巡る流れと現状など資料も示しながら話をしてくれました。高槻市では、申請から決定まで法律の規定通り2週間を越えませんでした。和歌山市では「法の特例」で通常4週間かかっています。私、ひめだは、世帯類型

## こんにちは 日本共産党です

福島原発の高濃度の放射能汚染水が地下貯水槽から、だだ漏れしていたことが発覚した。汚染水は毎日400トンずつ増えつづけていて、それをタンクに溜めている。東電は「海洋への流出はない

い」というが、この水を真にうける人がいまの日本にいるだろうか。東電は建屋内に地下水が入らないようにと、井戸を二本も掘っている。実際には大量の高濃度汚染水が地下水に流入していたことになる。汚染水がいったん地下水に入ってしまうと放射能物質の除去はできないし、当然、海にも流れ出す。放

別と相談件数などの経年変化を示して、和歌山市の生活保護について話し、保護費は憲法の規定通り、国が責任を持つべきで負担を市に押しつけるなど主張。

**日本共産党 演説会**  
 5月20日(月) 夜7時~  
 公園前のダイワロイネットホテル4階  
 山下よしき 参院議員・書記局長代  
 原やすひさ 党副委員長

射性物質を環境中に出さないことが最優先なのに、政府と東電は最悪のことをやっていたわけだ。汚染水ひとつまともにも処理できない人たちが国の蛇をとり、原発の「再稼働」を口にしている。



原やすひさ (参院選挙区)

# 山下よしき参院議員から、手紙が届きました。 こんにちはは、山下よしきです

3月16日、日本共産党主催の「いじめシンポ」のパネラーとして参加しました。目の前の「いじめ」から子どもの命をどう守るか、深刻化する「いじめ」の根本にならがあるか、3時間語り合いました。参加者から「今まで多くのシンポに参加したなかで最高」「多くの人とつながりがあった。こそ遺族の願いも実現している」「などの感想をいただきました。爽いじめ対策チーム責任者として準備の苦労もありましたが、本当にやってよかったと思っています。「いじめ」問題を解決するためには、みんなが考え、話し合うことが一番大事ですね。シンポと党の提案が、地域や学校での集いや懇談の力になるなら、こんなうれしいことはありません。

3月の国会では、参議院本会議代表質問で安倍首相に復興、TPP、オスプレイと熱い焦点で追求。総理も非正規雇用の増大が低年金や少子化の一因になっていると認め、若者の能力をすりつぶす「ブラック企業」の調査と指導に言及させたことは今後にはかすことができません。「ブラック企業」のやりとりを知った若い方から「こういう政治家さんもいるんだ、ありがたいなと思いました」とメールが届きました。

今国会が終わるといよいよ7月の参議院選挙です。もっとたくさん国民の思いを届けられる国会にするため、国会議員団を存続として大きくしなげればと痛切に感じる毎日です。